

2022年度 第2回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

1 日 時

2022年5月23日（月） 10:00～10:30

2 開催方法

WEB会議

3 出席者

田中理事長、星副理事長、阿部理事、伊藤理事、荻野理事、岡島理事、荒井監事、後閑監事

4 出席教職員

鈴木副学長兼学部長、朝日学長補佐兼高等教育開発センター長、濱口研究開発センター長、林学生支援センター長、福田副局長、森調整幹兼総務担当部長、山口企画・情報担当部長、片岡財務担当部長、山崎施設管理担当部長、関口教務・入試担当部長、江尻学生・就職支援担当部長、関根研究・地域産学連携担当部長

【視聴】

金村研究科長、延原情報センター所長、田口地域産学連携センター所長、滑川保健センター所長、東高等教育開発センター副センター長、北畠地域産学連携センター副所長、田中共通教育科長、山崎理学療法学科長、川俣作業療法学科長、河村社会福祉子ども学科長、高橋健康開発学科長、添田看護学科教授

5 議事概要

【議事録確認】

理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

【議決事項】

(1) 第3号議案 教員の採用について

資料に基づき、星学長より説明された。

主な発言は以下のとおり

どのような手段で「公募」しているのか。

→大学ホームページに公開、関係大学に案内している。その他、「JREC-IN」という大学教員向けの求人サイトも活用している。

案のとおり、異議なく議決された。

(2) 第4号議案 法人規則等の改正について

資料に基づき、片岡財務担当部長より説明された。

主な発言は以下のとおり

退職手当相当分の負債を中期計画最終年度で収益計上することについては承知したが、逆に退職手当が足りなくなった場合はどうなるのか。

→仮に足りなかった場合は、翌々年度の運営費交付金において追加交付されることとなっている。

退職手当相当分を収益化した場合、その用途は特定されるのか。剰余金という扱いになるのか。

→収益化した額は、臨時経費として計上し一時的には当期の総利益の増加につながる。しかしながら、公立大学法人の会計制度上、中期目標期間の最終事業年度における当期総利益はすべて積立金に計上しなければならないとされている。決算処理が終わった後に、設立団体である埼玉県に対して、積立金の中から第3期中期目標期間に法人の経費に充当できる金額について繰越の承認を求めることとなる。承認が得られた分は、(用途は退職手当に制限されず)活用可能になる。

案のとおり、異議なく議決された。

【報告事項】

(1) 2021年度卒業生の就職・進学状況について

資料に基づき、林学生支援センター長から報告された。

主な発言は以下のとおり

資料から県外からの入学者が埼玉県内で定着する(=就職される)ことが見て取れ、県内就職率は非常に良い数字ではないかと思う。受け皿となる県内就職先の魅力、待遇や労働環境も影響してくるので、(目標を下回ったことが)一律に大学の責任に帰するものではないと思っており、あくまでも努力目標だと改めて感じたところである。

就職・進学しない希望しない者の中で、公務員試験を再挑戦する者や病気療養中の者がいるという説明があったが、これらの者に対するフォロー・支援は行っているのか。

→卒業者もキャリアセンターを使うことができ、相談できる。また、教員とのつながりが強く卒業後も教員を訪ねてくることもあり、卒業後もつながりも絶やさず支援している。

(2) オープンキャンパスの開催について

資料に基づき、関口教務・入試担当部長から報告された。

以上